

歩けば歴史に出逢う

① E-3



大御堂とは、浄土信仰の盛んな平安末期から鎌倉期にかけての阿弥陀堂のこと。廣徳寺の大御堂は13世紀はじめ、尼將軍北条政子が美尾屋十郎廣徳の菩提を弔うため、美尾屋氏の館跡に建立したものと伝えられている。

建物はその後再興されたもので、室町時代の後期ごろといわれている。

方三間の寄棟造、茅葺で関東地方らしい風格を帯びた堂姿を示す数少ない唐様仏堂である。

(国指定重要文化財・建造物／昭和13年7月4日指定) 大字表76 廣徳寺

廣徳寺 大御堂

静かにたたずむ
歴史の面影

悠久の
歴史を
訪ねて



KAWAJIMA GUIDE MAP

川島町 ふるさとの文化財

悠久の
歴史を
訪ねて

川島町 ふるさとの文化財

川島町のマスコット かわべえ&かわみん

KAWAJIMA GUIDE MAP



遠山記念館(旧遠山家住宅) 中棟・東棟



②鈴木家住宅主屋・土蔵 D-4 ▶



鈴木家住宅主屋



土蔵



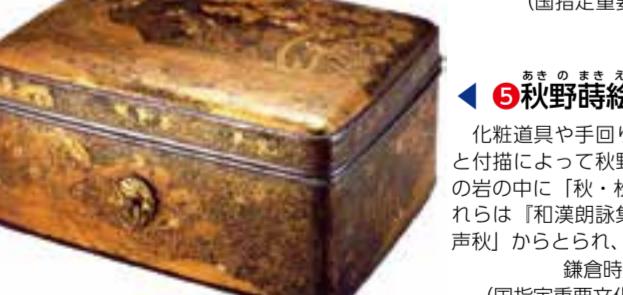
主屋(土間・大黒柱)



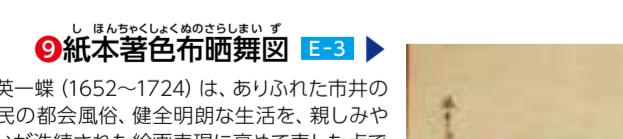
③鈴木家住宅主屋・土蔵 D-4 ▶



鈴木家住宅主屋



④紙本著色 三十六歌仙切 賴基 佐竹本 E-3



もとは出羽秋田藩主・佐竹家に伝來した上巻2巻の三十六歌仙絵巻であったが、大正8年、歌仙ごとに切断され転装となり、現在は諸家に分蔵される。本図はそのうちの大臣頼基像。似顔と呼ばれる技法で描かれた束帯姿の肖像に官位姓名、略歴と秀歌一首を書き添えられる。頼基は10世紀前半の歌人で、歌集「頼基集」を残している。

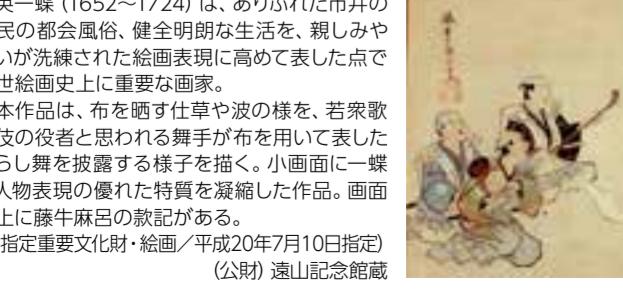
鎌倉時代 紙本著色 縦36.6cm 横59.9cm

(国指定重要文化財・絵画／昭和25年8月29日指定)

(公財)遠山記念館蔵



⑤秋野詩絵手箱 E-3



化粧道具や手回り品を入れるための手箱。全面に高蒔絵と付描によって秋野の情景が表されている。松の幹や土坡の岩の中に「秋・松・風」など12文字が隠し添えられ、それらは「和漢朗詠集」の詩「池冷水無三伏夏 松高風有一声秋」からとられ、詩絵の詩情を高めている。

鎌倉時代 縦25.0cm 横33.3cm 高15.3cm

(国指定重要文化財・工芸品／昭和34年12月18日指定)

(公財)遠山記念館蔵



⑥紙本著色 松庵色紙 伝記貫之筆 E-3

「古今和歌集」の和歌1首を揮毫したもの。龜甲や唐草の文様を描いた唐紙の冊子の断簡で、平安時代のかな遺墨の中でも、屈指の名筆である。京都大徳寺の寸松庵に伝来したことにならぬ名で、茶道の床飾りとして尊重された。

平安時代 伝記貫之筆 彩墨墨書 縦12.4cm 横11.5cm

(国指定重要文化財・書跡／昭和34年6月27日指定)

(公財)遠山記念館蔵

⑦源頼朝筆草書状 E-3

数少ない頼朝自筆の書状のうちの1点。伊勢に在中の配下、山城介へ宛てたもので、文治3年(1187)9月に行われた源宮潔子内親王の伊勢群行に関する別の用途(費用)について、先例を調べて急ぎ上申せよと命じている。歴史上重要な人物の筆跡であり、鑑賞に堪える書であることから尊重された。

鎌倉時代 文治3年(1187) 紙本墨書 縦27.0cm 横74.0cm

(国指定重要文化財・書跡／昭和34年12月18日指定)

(公財)遠山記念館蔵

⑧紙本著色 春闌起鶴図 E-3 ▶

幾重にも連なる春緑の山々。谷間に朝靄が流れ、その中を目覚めたカラスが飛び立っていく。図上の題贊によると、元末の文人画家、董其昌の「曉靄起鶴図」という作品に倣って描かれたもの。米点と呼ばれる点描法を効果的に用いて、測いのある穏やかな画面をつくりあげている。岡田半江は、江戸時代後期に大阪で活躍した画家。

江戸時代 天保12年(1841) 岡田半江筆 紙本著色 縦130.8cm 横36.2cm

(国指定重要文化財・絵画／昭和54年6月6日指定)

(公財)遠山記念館蔵

⑨紙本著色 布晒舞図 E-3 ▶

英一蝶(1652~1724)は、ありふれた市井の庶民の都会風俗、健全明るな生活を、親しみやすいが洗練された絵画表現に高めて表した点で近世絵画史上に重要な点である。

本作品は、布を晒す仕草や波の様を、若衆歌舞伎の役者と見られる舞手が布を用いて表したさらし舞を披露する様子を描く。小画面に一蝶の人物表現の優れた特質を凝縮した作品。画面左上に藤牛麻呂の記載がある。

(国指定重要文化財・絵画／平成20年7月10日指定)

(公財)遠山記念館蔵

⑩絹本著色 太田資頼肖像 E-4

禅師は江戸城を築いた太田道灌の弟で、後年臨済宗の大本山鎌倉圓覚寺の住職となった名僧である。岩付城主資家は、謀殺された父道灌の靈を弔うため、その陣屋跡に寺を建てて叔父の叔父を初代住職に迎えた。これが養竹院である。

頂相とは禅宗の高僧の肖像画のことで、葬式法要のときに禪僧の生き姿として掛けられ、掛真ともいわれる。鎌倉時代禅宗の伝来とともに中国から受け入れられた画風で、莊重な横彩色で、美しい全身像が多い。この絵は何度か改修され彩度があがっている。頂相叔父は名将太田道灌の血をひく英風がうかがわれる。

(県指定有形文化財・絵画／昭和39年3月27日指定)

(大字表9 養竹院)

△ 11 紙本著色 達磨図 信方印 E-4

近世初期洋風画の作家である信方の作とみなされる達磨図である。方についての詳しい経歴等は不明ながら、キリスト教の影響を受けたすぐれた洋風画である。

從来の達磨像に、瞳孔の白点や全体に施された陰影など、洋画の画法を取り入れ、しかも違和感ないなど、作者の優れた技量が發揮されている。左下隅やや上に、歐風紋章のような落款がある。落款は印肉で捺印したものではなく、書いたもののように見えるが、絵の具を使って捺したようである。

(県指定有形文化財・絵画／平成11年3月19日指定)

大御堂と、浄土信仰の盛んな平安末期から鎌倉期にかけての阿弥陀堂のこと。廣徳寺の大御堂は13世紀はじめ、尼將軍北条政子が美尾屋十郎廣徳の菩提を弔うため、美尾屋氏の館跡に建立したものと伝えられている。

建物はその後再興されたもので、室町時代の後期ごろといわれている。

方三間の寄棟造、茅葺で関東地方らしい風格を帶びた堂姿を示す数少ない唐様仏堂である。

(国指定重要文化財・建造物／昭和13年7月4日指定)

△ 12 紗本著色 太田資頼肖像 E-4

禅師は江戸城を築いた太田道灌の弟で、後年臨済宗の大本山鎌倉圓覚寺の住職となつた名僧である。岩付城主資家は、謀殺された父道灌の靈を弔うため、その陣屋跡に寺を建てて叔父の叔父を初代住職に迎えた。これが養竹院である。

頂相とは禅宗の高僧の肖像画のことで、葬式法要のときに禪僧の生き姿として掛けられ、掛真ともいわれる。鎌倉時代禅宗の伝来とともに中国から受け入れられた画風で、莊重な横彩色で、美しい全身像が多い。この絵は何度か改修され彩度があがっている。頂相叔父は名将太田道灌の血をひく英風がうかがわれる。

(県指定有形文化財・絵画／昭和39年3月27日指定)

大御堂と、浄土信仰の盛んな平安末期から鎌倉期にかけての阿弥陀堂のこと。廣徳寺の大御堂は13世紀はじめ、尼將軍北条政子が美尾屋十郎廣徳の菩提を弔うため、美尾屋氏の館跡に建立したものと伝えられている。

建物はその後再興されたもので、室町時代の後期ごろといわれている。

方三間の寄棟造、茅葺で関東地方らしい風格を帶びた堂姿を示す数少ない唐様仏堂である。

(国指定重要文化財・建造物／昭和13年7月4日指定)

△ 13 小美濃郷檢地帳 C-2

封建時代の領主は自分の領地を把握するため検地をした。その記録が検地帳である。

小美濃郷検地帳は、慶長14年徳川秀忠のとき、今の上、下小見野を検地したものである。これによると、土地は上中下および下々等の等級に区分され、小字名等も記載されている。農民の多くは3反以下の耕作者であったために、有力な農民から土地を借りたり、使われたりして生活をしたことがわかる。

なお、この検地帳は全巻揃っていないが、川島で一番古い。(町指定有形文化財・古文書／昭和36年1月25日指定)

△ 14 道祖土家文書 D-2

この道祖神は大字吹塚の八幡神社境内の庚申塔のそばに立っている。

造立の年代がなく、ただ男女二人が手を取りあって立っているだけの簡単な石造である。前の道路は耕地をよぎり、越辺川を越え、赤尾(坂戸市)に至る。村境にあって村を守り、病魔を防ぐといつて祀られる神である。

(町指定有形民俗文化財／昭和36年1月25日指定)

大字吹塚830 八幡神社

△ 15 道祖神 B-3

この道祖神は大字吹塚の八幡神社境内の庚申塔のそばに立っている。

造立の年代がなく、ただ男女二人が手を取りあって立っているだけの簡単な石造である。

前の道路は耕地をよぎり、越辺川を越え、赤尾(坂戸市)に至る。村境にあって村を守り、病魔を防ぐといつて祀られる神である。

(町指定有形民俗文化財／昭和36年1月25日指定)

△ 16 道祖土家文書 D-

文化財 GUIDE MAP

歴史を訪ねて



△ 16 算額 D-3
この「算額」は、大字下小見野に建立された光西寺觀音堂に奉掲されている算術の問答額である。額文は、銅板に墨書きで图形を示し、設問、答の数値、計算式やその成立理由が書かれている。

これは、明治25年2月に奉掲されたもので、奉掲者として「関流算術士小提幾造門人 武州比企郡小見野住人 大谷織造撰」と記されている。

なお、社中として下小見野の人名、小提幾造の門下生として大字中山の人名が列記されている。

(町指定有形文化財・歴史資料／平成10年9月10日指定)
下ハツ林923 コミュニティセンター内 光西寺より寄託



△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会

△ 18 算額 D-3

下廊囃子は、角泉と同様、旧大宮市の木下地区よりも明治時代ごろ伝えられたと言われている。通常の囃子は、太鼓・笛・錆が各1つ、小太鼓が2つであるが下廊囃子は錆を2つ用いて演奏している。

(町指定文化財／平成29年2月22日指定)
大字上伊草下廊 下廊囃子連

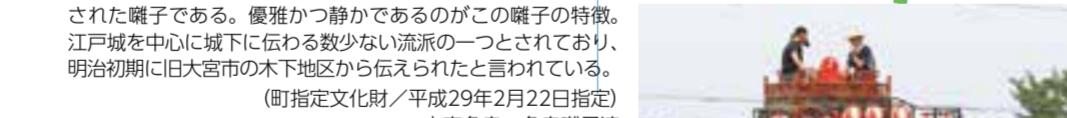


△ 20 地藏菩薩立像 C-3
この地藏菩薩立像は、比企能家の血を受けたという飯島氏一家の地蔵堂に安置されている。室町時代末期の作といわれ、寄木工法による木彫立像で貴重な文化財価値を持っている。にっこりした豊かな面立ち、慈愛あふれる容姿が人々の心をひきつける。

この地藏尊はひのき材で、彫りが深く見事で、像高は3尺2寸9分ある。昭和48年に解体修理し、復元された。

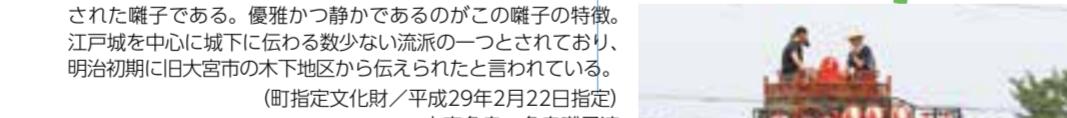
(町指定有形文化財・彫刻／昭和36年1月25日指定)

大字平沼626



△ 19 角泉囃子 D-5
角泉囃子は、山王流神田囃子と言われ、かつて、城中に奉奏された囃子である。優雅かつ静かであるのがこの囃子の特徴。江戸城を中心に城下に伝わる数少ない流派の一つとされており、明治初期に旧大宮市の中地区から伝えられたと言われている。

(町指定文化財／平成29年2月22日指定)
大安角泉 角泉囃子連



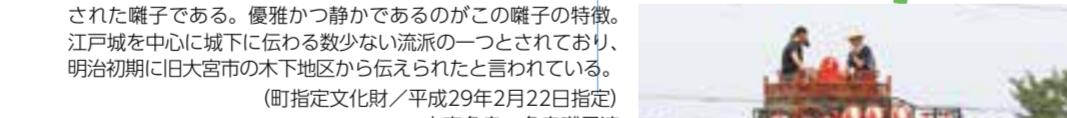
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



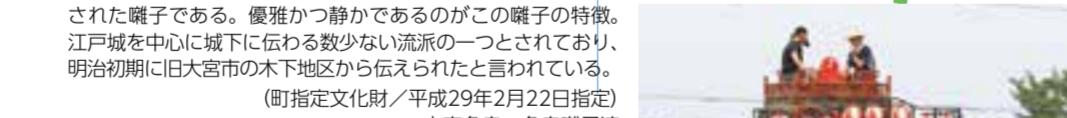
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



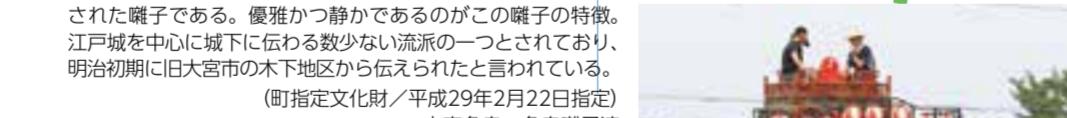
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



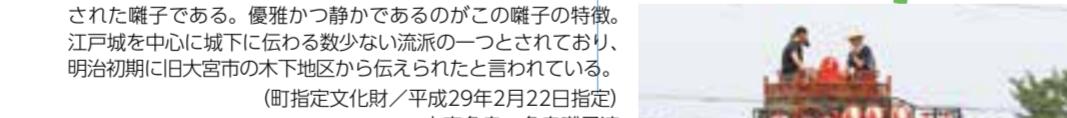
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



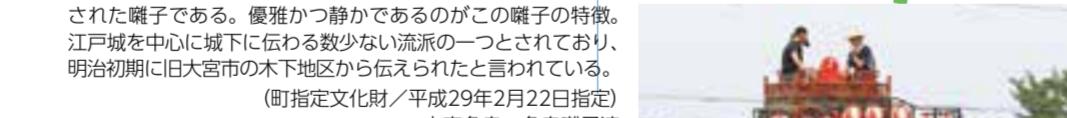
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



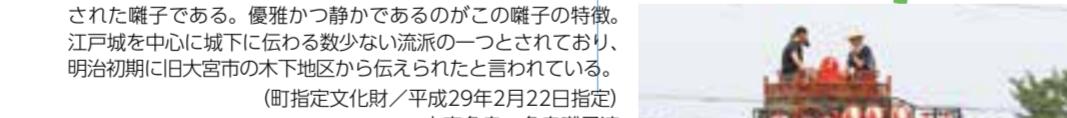
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



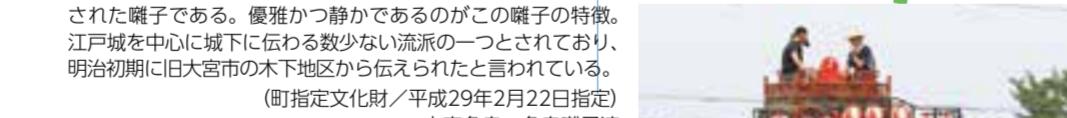
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



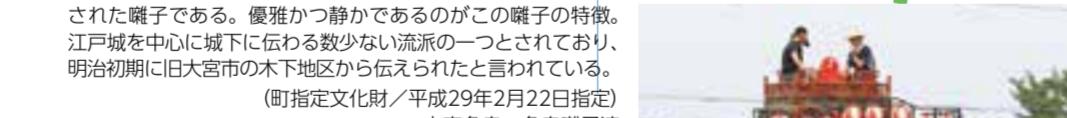
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



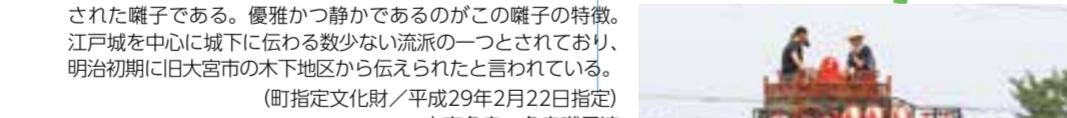
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



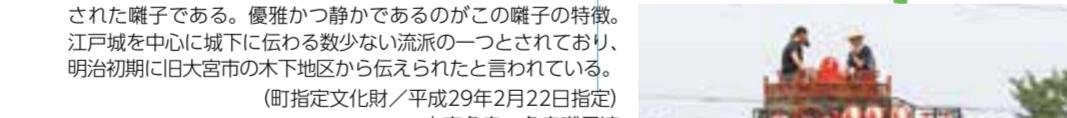
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



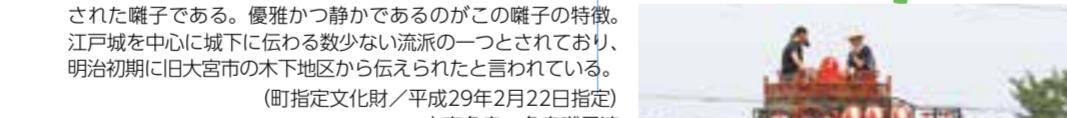
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



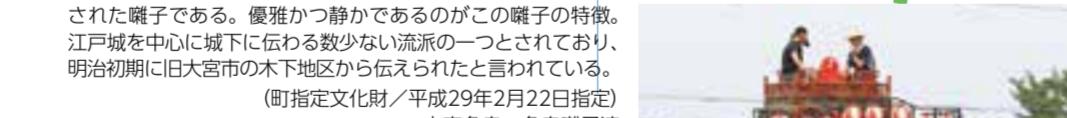
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



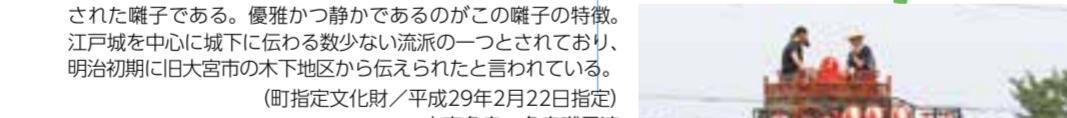
△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。

これは良勝の娘が熊野堂からゆり受け、心願成就の礼として薬師堂に奉獻したもので、裏面に「奉懸薬師如來鐙口一面 安永七庚辰五月六日於本同氏女」と記されている。欠損の部分はあるが、室町時代初期の見事な芸術品である。

(町指定有形文化財・工芸品・昭和36年1月25日指定)

大字下ハツ林586 薬師堂保存会



△ 17 鐘 D-2
この鐙口は明徳4年(1393)のもので、次のような銘が表面にある。「明徳四年癸酉四月 日大工河内權守國光 武州高麗郡佐西郷熊野堂僧律師良勝」

直径が22.3cm、厚さ6.1cm、青銅で造られている。